

ひまわり通信

SSKS
No.87



福祉移送サービス事業について

顧問 松宮 丞 二

ヒューマンハーバー世田谷は福祉有償運送という移送サービス事業を行っています。

日本ではいわゆる白タク行為は法律によって禁止されており、白ナンバーの家用自動車は、タクシィのように有償で運送の用に供してはならないと規定されています。

福祉移送サービスは当初は車いすなど移動困難な方が自由に外出したいという要望、できるだけ家での引きこもりを解消したいという要望、さらに困っている人をお互いに助け合いたいというボランティア精神などから市民活動として自発的に生まれたものです。

世田谷区では国際障害者年(1981年)の記念事業として世田谷ミニキャブ区民の会が作られ、福祉移送サービスが始まりました。当時は車いすの方が手を上げてタクシィを止めようとしても、タクシィが止まってくれないという事例が多く聞かれました。

発足当時から対価を得て家用車で移送サービスを行うことは、適法か違法かがいまいであるといわれていましたが、ニーズがあ

り、対応ができないのでやむを得ない行為であると黙認されていました。

そうした中、タクシィ業界から国土交通省に対して、法的な許可を得ずに行う移送サービス事業に関して、取締り強化の要望があり、国土交通省は厚生労働省と協議の結果、2004年に福祉有償運送のガイドラインが制定され、NPO法人や社会福祉法人など非営利活動法人は、このガイドラインによって、各市町村に設置される運営協議会の協議を行うことが必要となりました。

更に2006年には改正道路運送法が施行され、それまで法の例外としてみなされていた福祉有償運送が、法律に明記されることとなりました。

しかし福祉有償運送はあくまでもタクシィなどの交通機関によって十分な輸送サービスが確保できないと認められる場合に、NPO等が、実費の範囲内で、営利とは認められない範囲の対価によって家用自動車を使用し、会員に対して行うドア・ツー・ドアの補完

的な個別輸送サービスであると位置づけられ、更に国土交通省に登録することが必要になりました。

福祉有償運送は輸送の安全や旅客の利便を確保するためには、運行管理や事故後の処理体制の整備など、ある程度組織的な基盤が必要とされ、運営主体は、NPO法人等に限られました。

登録の有効期間は初回2年で、事業者は重大な事故等がなければ3年ごとに自治体主催する運営協議会に膨大な資料を提出して、運営協議会の審議を経て、更新の登録を受けなければなりません。運送の対価は、タクシィの上限運賃の概ね1/2の範囲内であることとされています。

世田谷区の試算によれば区内で介護タクシィやNPO法人の福祉有償運送などの既存の移動手段で対応しきれない移動困難者のトリップ需要は年間20万件以上と推定されています。

今後移動困難者はますます増え、担い手の人材不足が深刻になっていく中、こうした厳しい条件の下で、移動困難な方をお一人でも多く外出して頂くことが努めているのが当会の福祉有償運送です



「車椅子でスキー場へ」

サニー・けあサポート
当会理事 實井茂人

障害福祉制度の一つに「移動支援」という制度があります。

「移動支援」の支給は障害種別や障害程度区分によって決まり、社会参加等の外出時に何らかの介助が必要な場合は「移動支援ガイドヘルパー」という資格を有するヘルパーの介助を受けながら、色々な所へ外出することが出来ます。

サニー・けあサポートのお客様の中にも受給が決定し、この移動支援を利用されている方が大勢いらつしやいます。

先日も二人の車椅子ユーザーの方と一緒に、八ヶ岳の麓でスキーを楽しんできました。

Nさんは8年前から毎年の恒例行事となっていますが、Oさんは初めてのスキーでした。

車椅子ユーザーにとつて積雪は大敵であり、ましてや雪国でスキーをするなど想像もつかない方が多いと思えます。

しかし、チャレンジ精神と勇気さえあれば、ガイドヘルパーを利用して多くの事に挑戦出来るのです。

この原稿を書いている間も冬季オリンピックが開催されていますが、冬季パラリンピック・アルペンスキー競技の1つに座位で滑るチエアスキーがあります。



す。

体重移動で方向を変えながら旗門をクリアし、タイムを競います。

お二人が体験されたのも同じチエアスキーですが、一人での滑走が無理な場合は専任のインストラクターが後ろから操作してくれま

す。リフトで登った山頂からは雪景色を眺め、いつもの車椅子とは違う想像できないスピードでスリリングに雪山を滑り降りります。

お二人がこれに刺激をうけて「4年後の北京パラリンピックに出たい!」と言ってこられたら、どういうガイドヘルプを行えばよいのやら……。

障害による一番のバリアは、実は障害のある方ご本人の心の中にあるのかもしれない。

ハンディーキャップを理由に、諦めなければならぬ事もあると思いますが、決して諦めずたとえ小さな「可能性」だったとしても、勇気を出して一歩進むことで「可能性」はどんどん広がります。

「移動支援」のような社会資源を上手に利用することで、行動範囲を広げればこれに越したことはないと思いません。

健康者よりもずっと好奇心の旺盛なお二人。次の目標はパラグライダーとのこと。

空を飛ばれるそうです。ヘルパーは送迎だけにして地上から眺めたいと思います。



ひまわり句会

菅野孝夫 選

節料理成年三代揃ひたる
寒卵両手の平に包み込む
かくはしき熱海の夜や梅の花
認知症講座満席春隣

小田原郁代

山眠る飲むヨーグルト喉に沁む
落ちてなほ輝いてる寒椿
冬深き笛吹川や身をさらし
昇殿や明治神宮初神楽

亀井歌子

元日と言つてはをれぬ濯ぎもの
寝そびれて志ん生を聞く松の内
初夢や夫婦正装ウイーンフィル
残念な結果となりぬシクラメン

小松原錦子

駄菓子屋のかたと英語お正月
近くの山遠くの山の初景色
内陣の奥の暗がり福は内
枯木立雀のどつと来てるたる

大谷のり子



行事報告

◎河口湖 紅葉を訪ねての旅

十一月十二日(日)

私が十年以上かけて区の助成バスの申請をしてきてやっと、二十九年度 年二回バスの助成が受けられる様になり、第一回目の日帰りバスハイクでした。バス代が日帰り一日八万円、高速代・駐車場代等が二万円、十万円程かかるので、参加者三十人としても一人三千円は必要になります。

曇り空の下野沢を出発、途中小雨がパラついたので、河口湖では富士山も見られませんでした。富士吉田にあるふじやまビル工場のレストランで昼食を食べ、隣接する道の駅で買物をしてから、河口湖の大石公園に向いました。

紅く色づく見事なコキア(ほうき草)は、盛りを過ぎて茶色くなっていました。紅葉見学で賑う湖畔の紅葉通りは出店も出て、人であふれていました。バスも徐行するので、バスの中から紅葉見学が出来ました。参加者二十六名



◎区民ふれあいフェスタ

十二月三日(日)

今年も区民ホールの一階で書道・俳句・絵手紙等、ひまわりの集いの作品が展示されました。会では例年、バザーも出展しているの、朝早くから、商品の搬入や展示で皆さんに協力して頂きました。

当会の品物は、安くて良い品が多いと、いつも前評判が高いので、開店前からあちこちの荷物を開けて探している人もいます。

天候にも恵まれて今年も大勢の人達が、各催しに参加したり、売店をのぞいたりしていました。



◎早川のみかん狩り

十二月八日(金)

今年も夏の天候がいまいちだったため、みかんは全国的に不作とかでスーパーでも高値で売られていました。

小田原早川のみかん山でも、今年も甘みが少ないとの事ですが、南側に面しているみかんは甘いそうです。途中はぐれた車両もあり、右往左往しましたが、無事に終り真鶴の魚市場の二階で昼食を楽しみました。お土産のみかんと、摘み取ったみかんを分けて、無事帰京しました。

参加者 二十八名



◎忘年旅行会

九十九里かんぽの宿旭

十二月十七日(日)

今年も昨年通り身体障がい者の会(杉田会長)と一緒にやる予定でしたが、会長が体調をくずし療養中なので、今回身障の会は中止とのことになりました。会としては急遽、日時と参加費を変更して実施しました。

野沢から首都高速で湾岸線に出て千葉東JCTで圏央道に入り途中のSAでトイレ休憩、アツと言う間に旭に到着しました。

宴会が始まり、今年も青村ゆかりさんとピアノ演奏の伊藤きみ子さん達が、宴席を盛り上げてくれました。カラオケを愉しんだり、日頃の疲れを温泉で流したりして、三時に宿を出発、途中の道の駅で買物をして野沢に帰って来ました。十二月はフェスタやみかん狩りや忘年旅行など行事が多いので、大変ですが、これで今年も終わった、とホッとしています。

参加者三十名



新春新年会

一月十三日(土)

今年も新年会は柿の木坂の中華レストラン華空間で開かれました。新しく会員になられた『車イス社会を考える会』会長の篠原さんに乾杯の音頭を取って頂き、幕を開けました。今年も念願だった獅子舞いをお願いして、参加者の頭を囓んでもらい、一年を幸せに過ごしてもらおう事にしました。美味しい食事とお酒や楽しいアトラクションでアツと言う間の三時間でした。今年も頑張りましょう！

参加者三十一名



行事予定

三月日帰りバスハイク 三月十八日(日)

房総マザー牧場散策

久しぶりにマザー牧場に行きます。会では二回位行っているのですが、春の菜の花の季節は初めてです。食事処も新しく出来た様なので楽しみです。羊の毛を刈るショーや、アヒルの大行進、子豚のレース等も楽しめます。斜面いっぱい咲きわたる菜の花畑は、春を満喫出来ると思います。

・日時 三月十八日(日)

野沢九時出発します。

・行程 野沢く環七く産業道路く殿町ICく海ほたる(休)く木更津南ICく

マザー牧場で散策し昼食く帰路

・会費 一人 七千円(個人移送料 千円)

(バス代、高速代、入園料、昼食代他)

※参加希望の方は三月五日までにご連絡下さい。

平成二十九年度のバス旅行は今回が最後になります。三十年代は四月からまた新しい企画で、花を訪ねたり、美味しい食事処を探したりしていきますので、お楽しみに…。



編集後記

昔、私の小学校の教科書に、死んでもラッパを離さなかつた兵隊さんがいた！と習いました。今の私は、寝ても起きて二十四時間携帯電話が離せません。心筋梗塞で医療センターに入院した時も、集中治療室で移送の連絡を受けていて、事情を話したら隣の個室に入れてくれました。

移送の依頼で事務所に電話をすると、呼び出し音が5回鳴ると、私の携帯に転送される様になっていたので、旅行先で宴会をやっても、友達と食事をしていても、寝ていても連絡が来ます。

そのため必ずメモ帳とペンを持って動いています。すぐその場で配車出来るか否か判断出来ない外出先では戻り次第連絡しています。一週間の配車予定は、月初めに三週間ぐらいは組むのですが、定期利用者以外の依頼が多くあり、何度も組替える必要が出て来ます。まわりの人達は、ポケなくていいネ！なんてのんきな事を云っていますが…。私も八十二歳を過ぎましたので、少しポケさせて下さ〜い!? S記

「ひまわり通信」87号

2018年2月19日発行

編集 特定非営利活動法人

編集責任者 ヒューマンハーバー世田谷

住 所 隅 一 清

世田谷区野沢3-4-18-102

T E L 03-34487-5081

F A X 03-34422-9281

発行人 障害者団体定期刊行物協会

世田谷区砧6-26-21 (定価100円)